

再評価結果（平成25年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道49号 <small>すいばら</small> 水原バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局
起終点	自：新潟県阿賀野市寺社 至：新潟県阿賀野市下黒瀬	延長	8.1km		
事業概要	国道49号水原バイパスは、「交通混雑の緩和」や「交通事故の低減」や「広域ネットワークの機能強化」等を目的とした延長8.1kmの4車線のバイパス事業である。				
H12年度事業化	H10年度都市計画決定	H15年度用地着手	H17年度工事着手		
全体事業費	約350億円	事業進捗率	29%	供用済延長：0.0km	
計画交通量	19,700～25,100台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.6 (残事業) 2.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 213 / 333 億円 事業費：169 / 288 億円 維持管理費：45 / 45 億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 533 / 533 億円 走行時間短縮便益：407/407 億円 走行経費減少便益：84/ 84 億円 交通事故減少便益：41/ 41 億円	基準年 平成24年	
感度分析の結果	(事業全体) 交通量：B/C=1.6～1.7(交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=2.5～2.7(交通量±10%) 事業費：B/C=1.5～1.7(事業費±10%) 事業費：B/C=2.3～2.7(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.4～1.8(事業期間±20%) 事業期間：B/C=2.3～2.7(事業期間±20%)				
事業の効果等 定性的な効果	①物流の支援 ・物流の効率化や東部産業団地への企業立地のさらなる促進など、地域産業の活性化に寄与することが期待される。 ②路線バスの利便性向上 ・新潟駅方面をはじめ多くの路線バスが運行しており、市民の移動利便性向上が期待される。 ③通勤などの日常生活の利便性向上 ・新潟市中心部への通勤時間が短縮するとともに、現道から通過交通が排除されることで、現道利用者の利便性の向上が期待される。 ④救急搬送の支援 ・第三次医療施設である新潟市民病院などへの救急搬送時間が短縮し、救急搬送を支援することが期待される。 ⑤沿道環境の改善 ・通過交通がバイパスに転換することで、安全性の向上や騒音の低下などの沿道環境の改善が期待される。 ⑥緊急輸送道路としての機能向上 ・水原バイパスは高盛土構造で計画されており、阿賀野川氾濫時においても冠水せず緊急輸送道路としての機能向上が図られる。また、磐越道が事故や気象等の要因により通行止めとなった際は、代替ルートとして大きな役割が期待される。 ⑦阿賀野市のまちづくり支援 ・阿賀野市総合計画において、水原バイパスの整備促進が掲げられており、水原バイパスの整備により、阿賀野市のまちづくりを支援することが期待される。				
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等	・阿賀野市など2市1町の首長で構成される新潟県国道49号整備促進期成同盟会等より整備の要望を受けている。				
県知事の意見	・地域住民の安全・安心の確保や沿線地域の振興のため、事業を継続する必要がある。 ・なお、都市内の交通緩和については、TDMの活用の可能性など、総合的な観点からも考えるべきである。				

事業評価監視委員会の意見

・審議の結果、再評価及び対応方針（原案）の「事業継続」は妥当である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

阿賀野市において策定された「阿賀野市総合計画（第7次実施計画）（平成23年9月策定）」などのまちづくりに関する取り組みが進行しており、阿賀野市のまちづくりとの連携が求められている。

事業の進捗状況、残事業の内容等

事業の進捗状況：事業進捗率29%、用地進捗率92%

残事業の内容：埋蔵文化財の調査および全線の工事（改良工、橋梁工、舗装工等）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

早期のバイパスの暫定2車線供用に向けて、埋蔵文化財調査・改良工事・橋梁工事を推進する。

施設の構造や工法の変更等

当該事業は、一部区間を低盛土構造とするなど、用地取得を極力少なくした道路構造となっている。施行にあたっては、建設発生土の有効活用等により、コスト縮減を考慮していく。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。